

### 第3回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会 議事要旨

日 時 2018年1月26日(金) 18:30~20:00

場 所 市庁舎 2階おうえんルーム

#### 出席者

川崎登志喜 委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
浪越 一喜 委員(副会長)	帝京大学教育学部 教授
間野 義之 委員	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
大友 健寿 委員	株式会社ゼルビア 事業部 部長
関野 淳太 委員	株式会社CASCABEL FUTSAL CLUBE 事業部 部長
安部 徹 委員	町田市スポーツ推進委員 会長
市川 健一 委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 副会長
安達 廣美 委員	町田市町内会自治会連合会 会長
岡田 栄 委員	NPO法人 CCCNET 事務局長
大久保 明 委員	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会 事務局長

#### 欠席者

山本 正実 委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
永友 洋司 委員	キャノンラグビーフットボールクラブ ゼネラルマネージャー
鹿沼 由理恵 委員	市内在住トップアスリート(リオパラリンピック銀メダリスト)
佐藤 正志 委員	町田商工会議所 専務理事

#### 事務局

文化スポーツ振興部次長	小田島 一生
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長	石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課統括係長	根岸 良美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	地福 友美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	石川 典子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	武藤 玲美
政策経営部長	小島 達也
政策経営部企画政策課長	田中 善夫
都市づくり部長	神蔵 重徳
都市づくり部公園緑地課長	杉山 祐介
都市づくり部公園緑地課公園管理担当課長	高梨 光之

傍聴者 12名

## 議事

1. 開会
2. 事務局より
3. 第2回懇談会議事要旨の確認
4. 意見交換
  - ・野球場における見るスポーツの充実について
  - ・陸上競技場における見るスポーツの充実について
5. その他
6. 閉会

## 配布資料

- ・次第
- ・第2回懇談会議事要旨 ……資料1
- ・野球場について ……資料2
- ・陸上競技場について ……資料3

## 当日配布資料

- ・市内の主な野球場利用の抽選倍率に関する資料（資料2一部差し替え）
- ・近隣・類似市の陸上競技場整備状況
- ・Jリーグ参加自治体ホームスタジアム状況

## 議事要旨

### 1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

### 2. 事務局より

配布資料の確認が行われた。

### 3. 第2回懇談会議事要旨の確認

事務局から、第2回懇談会の議事要旨の確認が行われた。

事務局 修正等があれば1月29日までに事務局に連絡いただきたい。

### 4. 意見交換

事務局が資料2を基に説明を行った。

#### ・野球場における見るスポーツの充実について

川崎委員 この懇談会は「・地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること。・見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること。」と、大きく2つの事柄について意見交換を行い、提言にまとめるという目的がある。

野球場の数は近隣市と比較して大きく見劣りはしないが、小野路球場の観客席数は、それほど多くないということは言えるのではないか。一方で、照明などの設備の充実は進められている。

岡田委員 昨年11月に施設を見学し、スポーツ祭東京2013にも協力して感じたことだが、人を呼ぶことを目的にするのであれば、観客席を増席できるとよい。2017年度は高校野球が盛り上がっていたが、小野路の野球場が会場になっていたら町田も盛り上がったのではないか。また、増席と合わせて交通アクセスの良さを向上することも課題になるかもしれない。

川崎委員 利用の倍率はそこまで高くない。利用に関する不満等はないか。

事務局 休日は市民大会での利用が多いが、利用にあたっての不満はそれほどない。現時点では市民がスポーツをする場になっていると認識している。

川崎委員 平日の利用は多くないことをふまえると、施設の数是十分と言えるかもしれない。

浪越委員 見るという視点で考えるとプロ野球の2軍戦開催は魅力的だと思う。しかし、年間何試合開催できるのか、近隣で国体を機に大規模に野球場を整備した自治体もあるといったことを考えると、野球場の観客席の整備は町田市として優先順位は高くないのではないか。

川崎委員 野球場については、今後の整備計画に対して大きな変更を提言するのではなく、現状を維持していくという考え方としたい。

#### ・陸上競技場における見るスポーツの充実について

事務局が資料3を基に説明を行った。

川崎委員 日本陸上競技連盟の第3種の公認を受けている点では、近隣市と比較して見劣りしない施設となっている。現在、陸上競技場を利用して行われる競技はいくつかあるが、それ

ぞれ見るという視点で意見交換を行いたい。

- 浪越委員 見るという視点で考えた場合、施設設備は十分な状況にあるのか。
- 川崎委員 陸上競技場を利用する立場で、意見はあるか。
- 大友委員 ホームタウンチームとしての活動も踏まえ、スタジアムを使って地域を活性化していくという視点は市と同じ方向を目指していると考えている。  
選手やマスコットによるホームタウン活動は年間 180 回ほど活動しており、F C 町田ゼルビアとふれあっている人は 15 万人ほどと認識している。地域の活性化に向けて今後も継続して活動を推進していきたい。
- 川崎委員 スポーツを通じた地域の活性化という視点で、ペスカドーラ町田はどのような取組を行っているのか。
- 関野委員 年間 80 回程度地域のイベントに参加し、チームのPR活動等も行っている。前回の懇談会でも発言したが、魅力のある試合をしてより多くの人に見る機会を提供するとともに、試合後に成瀬地域の商店街の利用を促進するなど、地域経済の活性化にも寄与できるとよいと考え取組を実施している。地域とコラボレートしたイベント等はほぼすべてのホームゲームで実施している。
- 川崎委員 D U A R I G F リーグ 2017/2018 シーズンはプレーオフで準優勝ということでネットや新聞では話題になっていた。  
スポーツを通じた地域の活性化の取組は様々な事例がある。
- 間野委員 四国にF C 今治という、サッカー元日本代表監督の岡田氏が経営するクラブがある。そこで3年前から研究を行ってきて、サッカー観戦に来る人は地域愛着が高いという結果やサッカー観戦を通して地域愛着が高まるといった傾向も見えてきている。  
サッカーに限らずスポーツ観戦は地域の一体感や愛着、誇りを醸成する可能性が示唆されている。  
その点で町田はよい条件が整っており、今後も大きな可能性を秘めていると言える。
- 川崎委員 町内会自治会では、そういった話題はあるか。
- 安達委員 興味ある人は、プロ野球の2軍であっても足を運ぶと思う。野球場、陸上競技場いずれの施設においても、アクセスの不便さの方が話題になる。見る施設として整備するためには駐車場が不足していると感じる。  
地域を活性化するための交流について考えると、町田市内は10地区に分かれているが、地区対抗の取組を実施するといったアイデアがあってもよいかもしれない。
- 岡田委員 他のサッカークラブのホームゲームでは、ホームタウンとなっている町の住民を招待するとともに、その町をPRするという企画があった。そのクラブのホームタウンは複数あり、その日はある1つの町に焦点をあてていた。町田でも地区ごとに焦点をあてて、ホームゲームに招待するというアイデアがあってもよいかもしれない。  
また、駅からスタジアムまでのシャトルバスを直通ではなく、途中下車可能としてもよいのではないかと。ゼルビアの試合を見に行く際に、町田を観光できるという視点も持っていてよいのではないかと。
- 安部委員 ホームタウンチームに町田市出身の選手がいるということをPRしていくことは、ひとつの地域活性化の視点ではないか。また、ジュニア世代から育成していくスタンスを取っていると思うが、その成果が市民には見えてこない。

町内会自治会や子ども会について、関係団体同士の横のつながりも、地域を盛り上げていくには重要だと感じている。

陸上競技場の利用については、子どもの頃からグラウンドや施設の中に入る機会をつくれるとよい。地域の子どもからプロ選手まで一体的に取り組まないと町田市もFC町田ゼルビアも盛り上がっていかないのではないかと。

小学校ごとに子どもを招待するといった取組もあってもよいかもしれない。

川崎委員 FC町田ゼルビアは試合後に子ども達がグラウンドに入れる取組を実施したことがあると聞いている。取組がうまく市民に伝わるよう、関係者が一体となって取り組んでいけるとよい。

トップリーグに所属するチームがある自治体とそうでない自治体がある。事務局で何かデータを持っているか。

事務局 全国には約1,700の市町村がある。対して、Jリーグ加盟クラブが全国で57クラブ、フットサルは合計19クラブ、ラグビーが合計16クラブで、合計92のトップリーグの所属クラブがある。

川崎委員 約1,700の自治体の中で3つのトップリーグに所属するクラブがあるという環境は、非常に恵まれている。

間野委員 整備手法についてだが、青森県八戸市内の新幹線も停車する八戸駅から200mほどの距離に新しくアリーナを造るという話がある。そこでは区画整理が終わった更地を八戸市が民間事業者へ30年間無償貸与するが、施設の建設、運営はすべて民間事業者が行うこととしている。また、その民間サービスのうち学校教育や地域住民の利用枠として年間2,500時間分を借り受け、1億円の使用料を支払うこととしている。

今回の見るという視点での施設整備についても、税金だけでなんとかするのではなく、民間事業者や投資家がでてくる環境の整備を検討できてもよいかもしれない。また、新たな用地の検討が難しいかもしれないが、そういったパートナーシップを検討していく視点もあってもよいかもしれない。そういった知恵やお金を皆で出し合っていく新たな取組に挑戦できるとよい。一民間事業者との連携は難しい問題もあるかもしれないが、施設のライフサイクルコストを提示し、市民のための環境となることを明確に提示できれば、議会等の理解を得られた事例もあると聞いている。

川崎委員 広島や大阪のサッカーや野球場の例は全国でもいくつかある。町田市の見る環境の整備にあたっては、様々なアイデアを持って検討を進めていけるとよい。

市川委員 これまでの自身の経験からの意見となるが、何かの参考になるかと思い、事例を紹介したい。

部活動に参加できない障がいを持った児童生徒に放課後、スポーツの機会をつくることのできないかと思い、教員が取り組んできたことがある。学校では十分な場が用意できなかったため、市内の体育館など学校の外でスポーツ教室等を開催してきた。現在市内在住の障がいのある児童生徒、OBが149名登録している。この取組に関わる保護者、ボランティア、関係団体にとっては見る機会となり、また、ボランティアがボランティアを呼び、多くの人を巻き込んだ取組となっている。

パラリンピックはアスリートに焦点があたっているが、ただ見て終わるのではなく、市民の見るスポーツを推進していくためには、素地を固めていくことが大事ではないか。

陸上競技場を拠点に地域を活性化し、見る環境を育てていくためには地道な取組だとしても、スポーツに関わる意思のある人たちを増やしていくことが重要だと考えている。ライフステージの中でも、学齢期にスポーツに関わる機会を定着させることは町田市民の見るスポーツの環境整備にとって大事だと感じている。

- 川崎委員 陸上競技場の利便性について、課題等はあるか。
- 市川委員 指導者やボランティアの参加など課題はあるが、施設そのものについては特にはない。
- 川崎委員 ホームタウンチームをサポートするという視点で、見る環境の整備について意見はあるか。
- 事務局 本日欠席の永友委員より、事前に意見をいただいているので紹介したい。  
キャノンイーグルスの地域活動は年間 10 回程度となっており、開催が少ない状況は課題であると認識していること、今後トップリーグは 2020 年に向けて地域密着型のクラブを目指すという方針を掲げているためキャノンイーグルスも、より一層地域への関わりを深めていきたいと考えていること、町田市のホームタウンチーム 3 チームの横のつながりを強化していくことも重要だと考えているとのことだった。  
前提としてチームとして結果を出していくことも重要で、これはホームタウンチーム、ひいては、町田を全国に P R する機会になると考えているとのことだった。
- 川崎委員 ホームタウンチームの試合の観戦環境の整備については市の計画にも掲載されており、市で検討した結果、新たな土地ではなく野津田の競技場をさらに整備していくこととなっている。
- 浪越委員 現状アクセス以外の点においては、野津田の陸上競技場は見るスポーツの場として大きな課題はないと考えている。昨今は、新たな施設の建設工事や完成後の利用者の声が騒音問題となりクレームにつながる例も多くみられることから、周辺住民の理解を得るために慎重な判断が必要になる。既存の施設の環境をよりよいものしていくことで、市民の理解も得ていくことも重要ではないか。
- 川崎委員 2020 年までに観客席増設の整備完了を目指しているとのことだが、どのようなスケジュールなのか。
- 事務局 2017 年度に基本設計を終え、2018 年度に実施設計、2019、2020 年度に工事着手、早期完了を目指している。
- 川崎委員 市としては 2020 年度の完成を目指している。
- 安達委員 浪越委員の意見にもあったが、騒音問題について町内会自治会に相談を持ちかけられることがある。市としての対応策があれば、あらためてお聞きしたい。スポーツに限った話ではないが、住民の理解のうえで、施設整備を進めていくことが重要だと考えている。地域の雰囲気悪化させてまで施設の整備を進めることは賛成できない。スポーツで地域を活性化することはよいことだと思うが、一旦クレームの対象となってしまうと、その後も続いていってしまう。一方的な施策とせず、地域と市とが一体となって環境の整備に取り組んでいけるとよい。
- 間野委員 町田市内に土地がないということであれば、長期的な視点で見て、相模原駅北口に広域行政として新たな施設の建設を検討してもよいかもしれない。前例がないので簡単にはいえないと思うが、200ha のうち 10ha がスポーツ・レクリエーションの場としての返還が決まっている。駅前で騒音の問題もあると思うが、そう遠くないうちに F I F A は人

人工芝のグラウンドを認めることになると思う。スイスリーグでは既に人工芝のグラウンドが認められている。人工芝のグラウンドなら屋根をかけることができ、騒音の問題もクリアできる。また、人工芝であれば常設の必要もなく、フットサルなど他の種目の運営も可能である。

一方、現実的な話で野津田の施設を増設するとなると、5,000席の増席に加えてバックスタンド側を全てVIP席にするくらいの発想が必要である。長崎などの例を真似ているだけでは周回遅れになってしまう。特に日本のスタジアムはVIP席が足りてないといわれている。

15,000席のスタジアムでJリーグでは年間18試合しか開催されない。その中でどのように客単価をあげるかを考え、ホスピタリティ向上の工夫が必要なのではないか。日本では吹田スタジアムが40,000席の中に2,000席のVIP席を設置した。それでもまだ全体の5%だが、世界で最も大きな規模のスタジアムでは全体の15%ほど、13,000席がVIP席となっている。

エンターテインメントとして、スポーツに限らず音楽イベント等の開催でもよいが、町田市民がほかではない感動や興奮を味わえる環境の整備を提案していかないと、単にプラスチックの席を5,000席増やしただけでは、町田市のスポーツを見る環境は盛り上がりがないのではないかと。

川崎委員 ただ席を増やすのではないという視点、周辺住民の理解を得ながら一体的に整備を進めていくという意見であった。

大友委員 野津田の陸上競技場の増席を進めるということであれば、現在も実施しているが、社員が近隣住民の方を訪ねる機会をさらに充実していきたい。野津田の地域の方から激励をいただくことも増えてきており、前に進んでいる実感もある。

間野委員の意見にもあったが、増席ということであればVIPラウンジができるだけ拡充されるとよいと考えている。見るスポーツという点で、収益をあげられるよいゲームとしていくこととともに、観客席増席の取組を進めていただき、市と協力して町田らしいスポーツを見る環境の整備の力になっていきたい。また、平日や大型のスポーツの興行がない日にどのように陸上競技場を活用していくかを考えていきたい。

川崎委員 町田の資産とも言えるホームタウンチームを生かす方法を市として考えていく必要がある。また、ホームタウンチーム間の連携も促進し、市全体で見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設の整備は、今後重要になると言えるのではないかと。

また、FC町田ゼルビアがJ1に昇格した際の経済効果も試算されている。

浪越委員 資料にある49億円という経済効果は、行政としても5,000席増席によるメリットの1つの裏付けのデータとなる。一方で、現在ゼルビアが町田をホームタウンとしていることによる経済効果は既にあるとも考えている。ゼルビアはホームタウン活動や教育にも力を入れているという話も聞いており、市民にとってメリットはあると考えている。町田にゼルビアがあることで、49億円という経済効果に加え、それ以上の価値が市民に提供されているのではないかと。

他市と比較しても、3つのトップリーグに所属するクラブがあることは大きな利点で町田市はこれを生かすべきであり、これらの資産が他自治体に流れてしまうことがないように、バックアップしていくことが重要だと思う。また、お金以上に、ホームタウンチー

ムが市民の誇りとなるよう、クラブをサポートしていけるとよい。

川崎委員 サッカーに限らずホームタウンを変更する例もある。3つのホームタウンチームが末永く活動していけるような環境をサポートしていくことは重要だと考えている。本懇談会ではスポーツを見るという視点で町田市内のスポーツ施設について議論してきた。これまでの議論を基に今後は提言にまとめていくことになるが、あらためて意見を整理する。

見るスポーツの環境の整備にあたり、地域住民の方への影響をふまえつつ、ホームタウンチームの活動の場を整備していくという考え方は反対の意見はなかったと認識している。町田市のスポーツ施設を見るという視点で考えた時に、現在進行している計画については間野委員の意見にあったように、ありきたりなものではなく、工夫して町田らしい整備を検討していけるとよい。

岡田委員 資料の中で総合スポーツパークという表現を目にしたが、グラウンドの近くにトレーニングスペースがあるとよいと感じた。松本山雅の事例も紹介されたが、ホームタウンチームを応援する一体感を見るスポーツの魅力である。野津田の競技場はゴール裏の席が少ないので、現状では一体感を得にくい。バックスタンドの充実も重要だが、ゴール裏も大きくなるとよい。

2015年度シーズンに試合会場で世界のビールを楽しめるという企画が野津田であった。こういった企画があると、スタジアムを楽しむという目的もできる。試合を見るとともに、観戦環境を楽しめる場づくり、にぎわい創出の取組も重要だと感じた。今後もこのような取組を継続してほしい。

川崎委員 まちのにぎわい創出につながる見るスポーツ環境の整備は、重要な視点である。

間野委員 テクノロジーの活用も重要である。AR/VR、IoTもそうだが、スタジアムアプリはアメリカでは標準になってきている。建築での工夫、検討が間に合わないのであれば、設備面で新たな試みを検討していけるとよい。野津田で開催される試合は全てゴーグルつけてVRで見るといった、全国の事例に追いつくのではなく追い越す取組を検討していけるとよい。資源や環境に恵まれた町田だからこそ、町田らしい新たな取組を工夫していけるとよい。

川崎委員 新たな技術の活用やトレーニング設備の充実といった意見のほか、にぎわい創出に向けた工夫や、個人的には防災の拠点となる機能を充実するといったことも併せ検討していけるとよいと考えている。

間野委員 多機能複合化もキーワードになると考えている。現状では年間で300日以上大きな興行がない。そこをどうするかも検討していくべきである。スイスにあるスタジアムでは、ピッチの下の半分はショッピングセンターで半分は駐車場となっている。土地がなければ、野津田も長期的な視点で重層化ということも検討してもよいかもしれない。グラウンドの上はサッカーであれば22人分しか荷重もかからない。

変わった例だと高齢者住宅を併設しているスタジアムもある。一見ミスマッチに感じるが、試合の際に子どもや孫が訪ねてくることは高齢者にとって喜ばしいことで、人気の物件になっていると聞く。

町田市の様々な社会課題を総合的に解決していく拠点として、多機能複合化という視点も念頭に置いておけるとよい。

川崎委員 　ただ席を増やすだけではない工夫が町田には求められているといえるのではないか。野津田の陸上競技場を生かして、スポーツを見るよい環境の整備を提言に盛り込んでいきたい。

## 5. その他

なし

## 6. 閉会

事務局 　第4回懇談会は2月22日(木)18:30から、場所は市役所10階会議室を予定している。  
以上